



平和とくらしを守る北九州市民の会

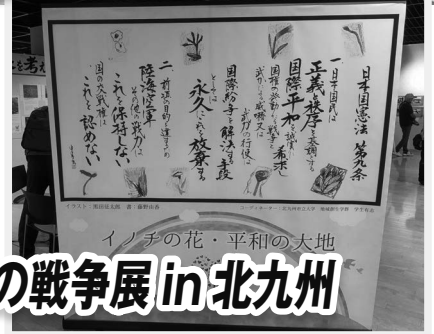
〒803-0817 小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
Tel 093-592-5000 FAX 093-571-4346

北九州市民の会

検索



WEB : <http://siminnokai.com>
e-mail : koe@siminnokai.com



戦後80年、憲法9条で平和な日本を

2025平和のための戦争展 in 北九州

被爆・戦後80年の2025年。第30回「2025 平和のための戦争展 in 北九州」が8月15日〜17日、八幡西区の黒崎コムシティで開催され、3日間で900人を超える市民が来場しました。歴史学者の笠原十九司さんが「戦後80年、被爆80年、憲法9条を生かし 平和な日本を!」と題して記念講演、長

崎市家族証言者の原田小鈴さんが、80年前に広島と長崎で二重被爆被爆した祖父について語り部を行いました。市民ギャラリーには戦時資料や写真など多くの貴重な資料が展示され、多くの来場者が訪れました。8月21日は門司区、小倉北・南区の戦争遺跡めぐりツアーを実施されました。

大軍拡と戦争国家づくりをとめよう



三輪実行委員長

今年には戦後80年です。80年前の日本軍国主義による侵略戦争と植民地支配によってアジアのアジア太平洋地域で2000万人の命が、日本国民310万人の命が奪われました。私たちはこうした侵略戦争と植民地支配の歴史を、国民共通の認識として、未来に継承していかなければなりません。また、私たちは日本国憲法に刻まれた再び戦争の惨禍を繰り返さないという不戦の誓いを新たにし、今進められている憲法違反の大軍拡と戦争国家づくりを止めるために全力を尽くそうではありませんか。

第30回戦争展は互いに歴史の真実を学び合い、平和をつくる力になることを確信しています。



講演する笠原さん

笠原さんが記念講演 押しつけでない「憲法」

近現代史を専門に多くの著書がある笠原さん。2023年には「憲法九条論争 幣原喜重郎発案の証明」(平凡社新書)を出版。日本国憲法はGHQから押しつけられたものという「俗説」を否定し、憲法九条の「戦争放棄」条項を提案したのは日本政府の最重要人物だったことを発表し話題となりました。

笠原さんは今回の講演会でも言及し「憲法9条は時の首相幣原喜重郎がマッカーサーに秘密裏に提案したもの。天皇制維持と憲法9条のセットで連合国の反発を回避し、日本の民主化を進めた」と歴史的背景を説明。憲法学会がこの事実を十分に認めていない現状にも触れました。

戦後80年、平和憲法の下での日本の平和政策と憲法9条の意義について、「日本は憲法9条によって戦争をせず、平和国家としての地位を維持してきた。ベトナム戦争・イラク戦争など、アメリカの圧力にもかかわらず自衛隊の海外派遣を回避してきた」と解説。一方で現状は安倍政権以降、集団的自衛権の容認や防衛政

語り部



原田さん

私は長崎から参りました、原田です。私の祖父は広島と長崎で二度被爆した二重被爆者の山口勉です。2010年に他界したんですけれど、今日は私たち被爆者、家族のお話、祖父の被爆体験をお話しさせていだきたいと思っています。

2011年より祖父の被爆体験を私語る活動をしているんですけれども、語るまでにはいろいろな葛藤があったんですね。被爆者家族がなかったのは、偏見や家族がなかったわけでもないんです。2世の母、3世が私。4世、今19歳

になったんですけれども、息子なんです。祖父の被爆体験を語って核廃絶を訴えています。

祖父の時代の人々が、どうしてなぜ戦争に走り、それから原爆を投下する決断を下したのか、その過程をやはり歴史の事実を知り、それから理解しながら私たち2人(著書『キノコ雲』の上と下の物語 孫たちの葛藤と軌跡)の共著者のアリ・ビーザーさんは広島と長崎に原爆を落とした両方のB29搭乗していた軍人の孫)の祖父と孫の声を共に世界に発信し届けることが、アリと私の宿命ではないかというふうに考えています。

歴史を作るのは私たちを含め、皆さん人間ですから、あの時代を繰り返さない、戦争に走らない私たちはやはり偏見を外し、正しい真実を見抜ける視野や知恵を身につけて、ええいくことが重要になっっていることを思います。

策の転換が進み、憲法9条の理念が揺らいでいる点を指摘。尖閣諸島・台湾有事など、アメリカの戦略に巻き込まれる日本の現状や、大軍拡、敵基地攻撃能力の保有、国内でのミサイル基地建設など、戦争リスクの高まりを挙げました。

今後、日本に求められることとして、日本政府の核兵器禁止条約批准や国連安全保障理事会の改革をあげ、憲法9条の理念を地球憲章として世界に広げるべきとの提言。そのための市民とメディアによる、草の根的な運動とその役割の重要性を強調し、日本会議など保守系団体の影響力排除や歴史認識・平和教育の充実が今後の重要課題と述べて締めくくりました。

来場者の感想

最近、大東亜戦争のことを肯定する人や話を聞きます。あの戦争のおかげで東南アジアの国々が独立できた。だから日本は恩人だという人や国もあります。私にはどちらが正しいのか、分からなくなる時があります。戦争は戦争国にも敗戦国にも多大の不幸をもたらします。その不幸は大多数が市民です。戦争を美化することなく、人々のさやかな生活ができることが平和の象徴です。

山口さんのことも原田さんのことも良く知っていて、いつかお話を聞けたらいいなと思っていましたが、まさか本当に聞けるとは思っていませんでした。貴重なお話が聞けて本当に嬉しかったです。今日のお話を後世に私たちも受け継いでいこうとあらためて決意しました。

原水爆禁止世界大会・ナガサキデー集会に 北九州から70人以上が参加

8月9日、原水爆禁止世界大会・ナガサキデー集会に向けた大型バスは、早朝6時に市営バス若松営業所をスタートし、小倉駅前、八幡駅前で門司、小倉、若松、八幡、そして戸畑の福建労北九州支部の方々など、6歳から87歳の高齢者など48人が乗車して参加しました。これ以外に、健和会より17人、JR参加で6人、計23人が参加しています。

バス内では、車両長の今泉慎次氏の挨拶に続いて、八幡原水協の石田康高理事長が、核兵器を巡る情勢と共に、広島市平和祈念式での湯崎県知事の挨拶の一部を紹介しました。

「国破れて山河あり」。かつては抑止が破られ国が荒廃しても、再建の礎は残っていました。「国守りて山河なし」。もし核による抑止が、歴史が証明するように、いつか破られて核戦争になれば、人類も地球も再生不能な惨禍に見舞われます。概念としての国家は守るが、国土も国民も復興不能な結末が有りうる安全保障に、どんな意味があるのでしょうか。

核兵器廃絶は決して、遠くに見上げる北極星ではありません。被爆で崩壊した瓦礫に挟まれ身動きの取れなくなった被爆者が、暗闇の中、一筋の光に向かって一歩ずつ這い進み、最後は抜け出して生を掴んだように、実現しなければ死も意味し得る、現実的・具体的目標です。諦めるな。押し続けろ。進み続けろ。光が見えるだろう。そこへ向かって這っていけ。原爆犠牲者の無念を晴らすためにも、我々も決して諦めず、粘り強く、核兵器廃絶という光に向かって這い進み、人類の地球の生と安全を勝ち取ろうではありませんか。

このすばらしい訴えを紹介し、人類の存亡をかけた闘い、その勝利への道、原水爆禁止の闘いを広げようと訴えました。続いて各人の自己紹介、そして原水禁運動の原点でもある「にんげんをかえせ」のDVDを上映し、青い空合唱団の堤氏の指導で平和歌集の全員合唱をしました。



参加者で会場いっぱいとなった長崎市民会館

会場の長崎市民会館には、被爆80年、被団協のノーベル平和賞受賞や、核戦争の危機を反映して、昨年の倍近い3200人が2階席や第2会場の文化ホールまで埋め、全国で700人が

視聴しました。世界各地から政府機関も含め220人以上が参加し、核兵器廃絶を求める熱気あふれる大会となりました。

ビデオ挨拶をした鈴木史朗長崎市長に続いて、日本被団協の田中重光代表



折り鶴を献納する参加者の皆さん

た後、エジプトの元外務次官は、「人類生存の危機が増大している。団結し、もっと強く活動しよう」と呼びかけました。

駐日メキシコ大使は、「核保有国に責任を果たすよう求めるうえで、市民社会が力強く支えていることに深い信頼を寄せている。核兵器禁止条約を推進していく」と表明しました。

ベルギー労働党の欧州議会議員は、「不安定な世界において欧州が今ほど、核軍縮と協力を推進すべき時はない。私達は平和と人間の安全保障の代弁者となろう」と語りました。

英国・核軍縮運動の副会長や、フランス、米国、韓国、マーシャル諸島の代表も発言し、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める運動を、高校生や九州・沖縄の代表が交流しました。

大会終了後、原爆資料館に移動して、資料館、平和公園、山王神社など、各人の希望により見学し、午後3時に長崎を後にし、北九州への帰路につきました。帰りのバスでは各人より感想と感想文が出されましたか、「こんなに集まった集会に感動もし、元気をもらった」「地元での活動を再構築したい」「若い方たちの参加に希望を持った」「最近、様々な集会への参加が減っていることに失望していたが、今度の大会に参加して元気と勇気をいただいた」など、核兵器廃絶と戦争させない世論づくりに力を尽くしたい決意が寄せられています。

平和大行進



核廃絶訴え

日本被団協ノーベル平和賞受賞報告会～核兵器禁止条約 8周年記念のつどい イン門司～

被爆国として核廃絶の運動を強めよう



講演する中村国利会長

被爆者団体協議会の中村国利会長が、「ノーベル平和賞授賞式に参列して」と題した講演を行いました。

中村会長は、①原爆投下後、アメリカは原爆被害の実相を隠し、日本政府は12年間、被爆者を放置してきた。②国民は被爆の実態、被爆者の悲惨な実態を知らされず、被爆者は差別と偏見に苦しみ、沈黙せざるを得なかった。③1954年3月のビキニ環礁の水爆実験でマグロ漁船全乗組員が被爆し、国民が事件の重大性を知り、全国で原水爆禁止の署名運動が広がり、全ての議会が、核実験の停止、原水爆の禁止を要求した。④これを契機に原水爆禁止運動と世界大会が開かれ、アメリカにも日本政府にも無視され続けた広島、長崎の被爆者が日本被団協を結成し、世界中に被爆の実相を伝える行動を開始したと、被爆者の闘いを報告しました。⑤ノーベル平和賞の授賞式に参加した感激と喜びとともに、核兵器を許さない国際世論が、80年間、核兵器の使用を許していない希望の光となっている。⑥核兵器と人類は共存できず、核廃絶は単なる願望ではなく、人類の生存に不可欠であり、日本政府は唯一の被爆国として、核兵器禁止条約を批准し、核兵器廃絶の先頭に立つ責任がある。⑦核兵器の使用が危惧される中、市民社会の運動を更に強めようと呼びかけました。

報告会は、被爆者の山川幸子さん(85才)、都城俊彰さん(81才)が証言をし、会場には、広島市立基町高校の生徒が、被爆者の聞き取りを元に描いた「原爆の絵」の展示なども行われました。

参加 案内

平和がいちばん!!

第62回 北九州母親大会

全体会
記念講演
あたたかいつながりをもって
生きていくために

太田 伊早子さん (横浜法律事務所 弁護士)

太田 伊早子(おた いさこ)さんプロフィール
神奈川県弁護士会所属、横浜法律事務所在籍。新婦人中央委員。
各地の憲法講座の講師、オンライン次世代ミニ交流などにゲスト出演。
新日本婦人の会 web サイト QR コード
新婦人オンライン全国ミニ交流「弁護士
太田伊早子さんの話」へつながることができます。



2025年10月26日 ⑧
日時 12:30 受付 13:00 開場

会場 ムーブ 2F ホール
北九州市小倉北区大手町11番4号

●資料代 700円
保育所あります



交通アクセス
●JR小倉駅より徒歩約15分
●西鉄バス「レイニール・ムーブ」下車
小倉駅バスセンター→27・36・45・110・138
●北九州市 唐山ランプ/大手町ランプ出口より約3分

生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることのぞみです
1954年3月1日、太平洋のビキニ環礁でアメリカの水爆実験が行われ、周辺で漁をしていた第5福竜丸船すべての船上の人たちに死の灰が降り注ぎました。広島、長崎に次ぐ3度目の被爆に日本の母親・女性たちが立ち上がり、世界に「核戦争から子どもを守ろう」と呼びかけました。ここから日本母親大会が始まり、生命(いのち)のスローガンにふさわしいゆるやかさと粘り強さ、人権・平等・平和を謳った憲法のもと、今年で70年を迎えます。北九州市では五市合併した1963年第1回北九州母親大会を開催、今年で62回目を迎えます



2025年 第70回日本母親大会ポスターイラスト
「いのちの命は壊さない!」ありはらせいけい

●主催 第62回北九州母親大会実行委員会
北九州市戸畑区神台2丁目7-30 新婦人戸畑支部内 連絡先 ☎ 江藤 093-962-2639